他人のために何かをしたい

音を楽しませ笑顔にさせ元気にする　堀江眞美さんの実像に迫る

2015年12月19日、20日の高知コンサートルポ

本紙、昨年8月20日号に掲載した本紙専属顧問の本澤康之氏と熊本・清田時計店の清田祐一氏の紀行文「大町桂月を訪ねて」が大反響を呼び、読者との縁で大町桂月の血縁に当たる人を知らされた。その人が堀江眞美さんだった。本紙の「つれづれ語り」の欄で2度紹介した眞美さん（ここからはこう呼ばせていただきます）の生き方を体感するため、12月19日と20日に高知へ飛び、2カ所で行われたコンサートから醸し出される眞美さんの魅力を紹介する。

体の不自由な人も笑顔満面で眞美さんと楽しみを分かちあう

全員が立ち上がり堀江眞美さんと一緒に手話を交えて『ありがとう』を歌う

19日　全員立ち上がり手話交えて合唱

コンサートでの堀江眞美さん

19日のコンサートは、高知市の住宅街にある小さなレストラン「エヴァンス」の2階。この会場は、眞美さんの魅力に惹かれたレストランのオーナーが器材を買い集めて用意した会場である。今回はグランドピアノ、ハモンドオルガン、電子ピアノと3台の楽器が用意された部屋に約40人が集まり、午後6時半からコンサート開かれた。

コンサートの始めに眞美さんは「今日は、ここに来てくださった皆さんが、健康で幸せになれるように私の演奏と歌をお届けします」と話して演奏が始まる。何曲か演奏した後には「皆さん、リクエストはありませんか」と声をかけると、参加者からは、色々な曲名が飛び出して来る。それらの曲全てのリクエストに応えていく。それも、どのような曲調でやりましょうか」と聞き、その要望にも全て応えていく。ポップス調、タンゴ調、ジャズ調などあらゆるジャンルの曲にアレンジしていく。

途中でトランペットを持参した参加者の女性とコラボすることになった。その女性から曲名を聞き「キーの高さは、テンポは」と質問しただけですぐに演奏をしてしまう。それもトランペット奏者を引き立てるピアノの響きであった。

休憩に入ると何人かの女性が、自分で作った酵素を眞美さんにプレゼントする。この酵素は、眞美さんが勧めたもので、今回は愛媛から来た参加者が10年に一度しか花の咲かないリュウゼツランからつくったという貴重なものだった。愛媛では酵素新聞も発行するほど酵素づくりが盛んだと言うところか。

まあ、ピンとこない向きの方が多いはずだ。

これが腕時計の値段と聞けば誰でもひっくり返りそうになる。

昨年、一昨年と2年連続で日本男子ツアーの三井住友VISA太平洋マスターズに出場したバッバ・ワトソンがはめていた時計の値段だ。「時計界のF1」がコンセプトのリシャール・ミル製の高級腕時計である。

時計メーカーがワトソンを契約したのは、強烈なスイング時の加速度にも耐えられるように設計されており、性能の高さを証明するブランドイメージキャラクターとして強烈だからだ。

ちなみにこの高級時計メーカーは「藍ちゃんのお兄ちゃん」で知られる宮里優作プロとも契約しており、ツアー会場では1200万円の腕時計をキラリと光らせてプレーしている。トップテニスプレーヤーのラファエル・ナダルの時計は9504万円。こうなると実用品よりも宝石のようである。

超高級腕時計をはめているスポーツ選手はやることも粋だ。

バッバ・ワトソンは「私にとってゴルフを通じて得たものはとても大きい。そして今度はお返しをする番」と3位賞金1020万円をポンと寄付。その前年は24位賞金1260万円を寄付しており2年で総額1146万円になった。

米ツアープロはチャリティー活動に積極的だ。

ワトソンは父親をガンで亡くしており、ガン撲滅のために試合で使うピンクドライバーで300ヤード超えるごとに300ドルを関連施設に寄付している。社会貢献の意識が高いのだ。

日本選手もちゃんとチャリティ活動をしているのだが、あまり表に出てこない。奥ゆかしいというのか積極的にアピールしない。

女子プロの大山志保は2014年からミヤギテレビ杯ダンロップ女子オープンで獲得した賞金をすべて毎年東日本大震災復興支援のため寄付している。14年は20位67万2000円、15年は2位と活躍して630万円を贈った。ちなみに黒田も11年に5万ドルを東日本大震災への被災者へ届けており、ガン撲滅キャンペーンにも寄付活動を行っている。こういう魅力あるスポーツ選手が増えたら、日本のプロスポーツ界もファンが増えるはずだ。（スポーツライター・三山辰男）

20日　車椅子の入所者　感激の笑顔と涙

翌日20日は、重度身体障害者施設「土佐希望の家」で行われた。この施設は、ほとんどが自力では起き上がれない状態の方々が施設で、1969年に設立された。この施設が設立された当初に、眞美さんのお母さんが看護師として住み込んで献身的な介護を行っていた。眞美さんも小さい頃は、この施設で入所者の人たちと一緒に暮らしていた思い出深い場所でもある。

コンサート会場になる3病棟西に、昨日コンサートを行った「エヴァンス」のオーナーが眞美さんの演奏する電子ピアノを運び込みセッティングをする。また、急きょ出演できることになったバイタルリアクトセラピーの創始者である山﨑雅文先生も自分のドラムを持ち込む。山﨑先生は以前にロックバンドをやっていたという。このセッティング中も車椅子を押されながら、また、床を這いながら入所者たちが続々会場に集まってくる。その人たち一人ひとりに眞美さんが声をかけながら電子ピアノの準備を行っていく。

車椅子でいっぱいになった会場には、寝たきりの人もいる。みんな真剣な表情でクリスマスコンサートが始まるのを待ちわびている。職員の方々も大勢集まってくる。

そして午後2時に、眞美さんの演奏と歌が始まる。ほとんど自力では何もできない入所者たちが音楽に合わせて手や足を動かせ始める。眞美さんの音楽の波動が入所者たちの身体に響いていくのだろう。

そして、眞美さんが立ち上がり入所者一人ひとりに話しかけるように歌うと、動けないはずの入所者が手を伸ばして眞美さんを触ろうと必死に手を動かそうとする。その手を握ったり、肩にやさしく触れながら一人ひとりと接して歌うと入所者の中には、涙を流す人も出てきた。

最後には、職員の方々やサンタクロースに扮した職員も混じり、手話を交えた『ありがとう』の大合唱となり、入所者の方々も体を揺らせて一体となっていく。短い時間ではあったが、動けない入所者の方々の『ありがとう』という感謝の気持ちが伝わってくる。

2カ所で行われたコンサートでは「他人（ひと）のために何かをしてあげたい」という眞美さんの心配りが自然に溢れ出る感動的なものとなり、眞美さんの魅力に惹かれ、手伝いをする方々の献身的な姿も印象的だった。

このような素晴らしい魅力に溢れる堀江眞美さんを全国に打ち出すことを時計工芸新聞社創刊70周年の事業とし、宝飾・時計・眼鏡業界の発展につなげるものにしていきたい。

休憩の後も参加者からのリクエストは、眞美さんが東日本大震災の被災地・石巻を訪問したときに作った『ありがとう』を全員が立ち上がり、眞美さんが手話を交えて歌い出す。足の悪い女性も立ち上がって一緒に手話をやりながら歌う。まさに会場が一体となり、眞美さんの優しさ、人を思いやる気持ちが聴く人を元気にさせていた。コンサートが終わった後、眞美さんに聞いたところ「コンサートで演奏する曲は、考えていない。頭は空っぽでコンサートを行う」という。そして、どんなリクエストでも大丈夫なのですかと聞くと「小さい頃から聞いていた曲が体の中に染み込んでいますから、それを体で表現して演奏します」ときりげなく応えてくれた眞美さんは、全て独学で身に付けたと言う。

そして午後10時半に近づくとレストランオーナーから「エヴァンス」との声が。2曲が終わると「3曲」と一向に終わる気配がなくリクエストに応えながら午後6時半から始まったコンサートは、午後10時半に近づくと